

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	東京大学	整理番号	K01
プログラム名称	ソーシャル ICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム		
プログラム責任者	坂井 修一	プログラム コーディネーター	國吉 康夫

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

[総括評価]

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

[コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、プログラムコーディネーターの強力な指導力の下、GDWS (Global Design Workshop)、合宿、ハッカソン、GD Techtalks、学生の自主企画プロジェクト、プレゼンコンペ等、特徴的な取組が多数実施され、かつそれらが学生にとって過負荷とならないよう配置されており高く評価できる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、学外プログラム担当者の積極的な関与、GD Techtalks の実施、国内・国外インターンシップの義務化などにおいて高く評価できるが、グローバルに活躍できる人材育成という観点からは、単なる交流を超えて海外へインパクトを与えるような挑戦的な取組が期待される。また、学生には研究職志向がかなり強いことから、理工系学生、文系学生それぞれに対するグローバル・クリエイティブリーダー (GCL) としてのキャリアパスの形成について、一層の取組が期待される。GCL を育てるための日常的な国際環境の構築や、GCL の対外的なステータスの確立も期待される。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、層の厚い教授陣や豊富な学外プログラム担当者が配置されていることは評価できるが、学内の教授全員がコミットしている状況にはまだなく、今後の改善が期待される。

優秀な学生の獲得については、情報系の学生、他大学出身者、留学生などダイバーシティのある優秀な学生が集まっており、またそうした学生の横の繋がりが非常に強く、新しいコミュニティが形成されている点も高く評価できる。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、1年次の予備審査、密着多元評価、産官の学外担当者の評価など、きめ細かいシステムが整備されていることは評価できる。

事業の定着・発展については、本プログラムの発展的継続が東京大学ビジョン 2020 に位置付けられており、今後本プログラムが持続的に発展するなかで、プログラムの社会的な先導性や波及効果に対する評価の実施が期待される。